



2022年10月13日

各位

会社名 株式会社セイヨー
代表者名 代表取締役社長 飯塚周一
(コード番号：2872 東証スタンダード市場)
問合せ先 取締役経営企画室長兼管理部長 宮島亜佐夫
TEL 025-386-9988

第2四半期業績予想と実績との差異に関するお知らせ

2022年4月8日に公表いたしました2023年2月期第2四半期(2022年3月1日～2022年8月31日)の業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、以下のとおりお知らせいたします。

記

(1) 2023年2月期第2四半期(累計)業績予想と実績値との差異
(2022年3月1日～2022年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想(A)	2,300	160	167	137	284.30
実績値(B)	2,442	99	95	77	160.32
増減額(B-A)	142	△61	△72	△60	
増減率(%)	6.1	△37.8	△42.6	△43.6	
(ご参考) 前期実績 (2022年2月期第2四半期)	2,635	160	167	137	335.76

- (注) 1 当社は、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しております。前期実績につきましては、当該会計基準等適用前の数値となります。
- 2 2022年4月25日を払込期日とする第三者割当増資により、発行済株式総数が99,000株増加しております。また、2022年7月21日を払込期日とする譲渡制限付株式報酬としての新株式発行により、発行済株式総数が9,000株増加しております。前回発表予想及び実績値における1株当たり当期純利益については、第三者割当増資及び譲渡制限付株式発行による増加株式数を考慮して算出しております。

(2) 差異の理由

第2四半期累計期間につきましては、主力のアイスクリーム部門において、自社ブランド品の新規取引先の開拓や既存取引先への拡販等が堅調に推移した結果、売上高は2,442百万円となり、予想を上回りました。

しかしながら、損益面については、アイスクリーム製品の売上増加に伴う販売促進費及び運搬費の増加、原材料価格やエネルギーコストの高騰、アイスクリーム類を製造する新潟工場における製造設備入替時の不具合品発生に伴う製造ロスにより、営業利益は99百万円(前年同期は営業利益160百万円)、経常利益は95百万円(前年同期は経常利益167百万円)、四半期純利益は77百万円(前年同期は四半期純利益137百万円)となり、予想を下回りました。

(3) 2023年2月期通期業績予想について

売上高につきましては、アイスクリーム類を製造する新潟工場における機械トラブルによりOEM売上が減少いたしました。現在、減少分の巻き返しを図るべく製造を行っており、足元の状況は順調に推移しております。

また、外部環境の変化への対応策として、下記のコスト削減、収益改善策に取り組んでおります。

- ・希望販売価格の改定を2022年9月より順次実施、収益改善に寄与
- ・自家消費型の太陽光発電を利用した、電力コストの軽減
- ・製品スペックを維持しながら、製品の使用原材料の見直し、コスト削減を達成
- ・現状の製品ラインナップに加え、高品質・高価格・高付加価値製品への取り組み

なお、当社は、これまで繁忙期である第2四半期に売上・利益の大半を計上し、第3・第4四半期には営業赤字を計上するという状況が続いており、第2四半期以外においてどのような営業戦略を実行していくかが長年の経営課題でありましたが、今秋よりこの経営課題に集中して取り組むべく、「セイホー秋冬強化プロジェクト」をスタートいたしました。

【秋冬強化プロジェクト】

- ①2024年2月期までに、第3四半期・第4四半期での営業黒字化を達成
- ②ブランディングディレクターとして就任した渡邊順氏のデザインを採用し、高価格帯の新商品を投入
- ③インフルエンサーを活用したコラボ商品に取り組み、新たな顧客層を開拓
- ④当社の代表的なオリジナル商品である「もも太郎」に匹敵するブランド力のある秋冬向け新商品を投入

以上の施策に取り組んでおり、2023年2月期通期業績予想につきましては、現時点で変更はございません。今後、修正が必要と判断した場合には速やかに開示いたします。

※上記の業績予想等に関する記述につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成されており、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上